

# 五夢りんと歩こう 五條・新町

## 歴史ウォーク 記録集



H25~H27

五條市立五條小学校



## 五條歴史ウォーク ～目次

H25

- 1 - 乾十郎
- 2 - 櫻井寺と天誅組
- 3 - 日本の状況と天誅組
- 4 - 代官所と天誅組
- 5 - 天誅組メンバー
- 6 - 井澤宜庵
- 7 - 栗山家と道しるべ
- 8 - 森田節斎
- 9 - 木村篤太郎と五新鉄道
- 10 - 二見城

H26

- 11 - 井上内親王
- 12 - 鈴木源内
- 13 - 天誅組と代官所
- 14 - 栗山邸
- 15 - 木村篤太郎
- 16 - 鍵屋弥兵衛
- 17 - 五新鉄道
- 18 - 川村たかし
- 19 - 水泳王国
- 20 - 二見の大ムク

H27

- 21 - 井上内親王
- 22 - 鈴木源内
- 23 - 代官所
- 24 - 栗山邸
- 25 - 大川橋北詰
- 26 - 木村篤太郎
- 27 - 鍵屋弥兵衛
- 28 - 五新鉄道
- 29 - 川村たかし
- 30 - 吉野川

# 五夢りん歴史ウォーク

平成25年

## 五夢りんと歩こう新町歴史ウォークについて

五條小学校6年生が私達の郷土を紹介して歩きます。

五条駅～新町通り～大和二見駅の区間の10ポイントを、両駅を起点に巡ります。

実施日時 **平成25年11月23日(土) 午前9時～正午**

集合場所 JR五条駅前

JR大和二見駅前



旧五條小学校講堂

五條市立五條小学校

〒637-0041

五條市本町1丁目1-4

TEL 0747(22)2200

6年1組 担任 鷹野 正美 (たかの まさみ)

6年2組 担任 徳本 義和 (とくもと よしかず)

校長 芝田 瑞也 (しばた みずや)



いぬい じゅうろう

1

# 乾十郎



● 乾十郎は1827年に五條北之町で、父治郎平の二男として生まれました。幼い頃から勉強ができ、早くから森田節齋に儒学を教してもらいました。また、節齋の弟、仁庵に医学を、梅田雲浜に国学を学び、大坂、五條で病院を開きました。

乾十郎は医者をしなから「真珠円」という目薬を売ったり、吉野川から下流の紀ノ川に木材を流す料金を安くする運動をしたり、奈良盆地に吉野川の水を流す計画を立てたりするなど地域の人々のために大変努力しました。

吉野川の分水計画では、吉野川の水を淀川に流して、水上交通に利用したり、干ばつに苦しむ奈良盆地の農民を救うために用水を引いて畑地を水田にし、米を20万石増やし、京都の食料を確保したりするといった大変大きな計画を立てたのでした。

また、乾十郎は医者でしたが、武士や剣の道にあこがれてもいました。五條代官所にほど近い場所に居を構え、代官所の様子を監視していました。1863年、天誅組が五條に攻め入るのを乾十郎が道案内人となって代官所をおそわせ、鈴木源内代官らを殺害する手助けをしたのです。

その後、天誅組の仲間を集めるために、吉村虎太郎と共に考えを同じくする武士を十津川まで集めにまわったりもしました。しかし、結局天誅組は幕府軍に攻められ、負けてしまいました。

乾十郎は逃げていましたが、捕まえられ京都六角の牢屋にいられました。牢屋の中で、乾十郎は「いましめの縄は血汐に染まるとも赤き心は変わるべき」という詩を残しています。彼の新しい世の中を築こうとする思いが伝わってきます。



さくらいじ てんちゅうぐみ

# 2 櫻井寺と天誅組



- 私たちの班は、櫻井寺について調べました。

櫻井寺は阿弥陀如来を本尊とする浄土宗のお寺です。須恵城主だった櫻井康成が942年の身内の所領争いで、あやまって実母を殺してしまったために、お坊さんになって、お寺を建てたと言われています。それ以来、このお寺の住職は、代々先祖をとおり、「康成」という姓を名乗っています。

江戸時代の終わりになって、櫻井寺を天誅組は本陣として、五條御政府と名乗りました。境内には、五條代官所代官、鈴木源内、その他、長谷岱助、黒沢儀助、伊藤敬吾、按摩喜吉の首を洗った鉢も残されています。

1863年8月17日、天誅組は70～80人程の軍勢で五條代官所をねらい、代官を討ち取りました。その後、御政府の看板をあげ櫻井寺を本陣としました。このことで五條は「明治維新新発祥の地」と呼ばれています。

8月18日の政変を受け急いで、天辻へ本陣を移した8月20日までの間、この寺にご政府の看板を挙げ本陣としました。

櫻井寺旧本堂の柱に残る槍・刀あとは、この騒動が起こった時にできたものと言われています。



# 3

## にほん じょうきょう てんちゅうぐみ 日本の状況と天誅組



● 1860年頃、日本の鎖国が終わる頃の国内は、天皇をあがめ外国を追い払おうとする「尊王攘夷」の考えと幕府を立て直し、朝廷（天皇）と協力しようとする「公武合体」の考え方が活発化し、お互いに相手をけんせいし始めました。

1863年8月、朝廷の要職にあった三条実美等の公家達は、幕府に対して、「攘夷の決行」を命令しましたが、幕府はそれを決行しなかったため、実美達は倒幕の計画をねりました。

計画の中身は、孝明天皇が「奈良の春日大社で攘夷を祈願する」といった行幸を行い、その行幸に乗じて、倒幕の兵を挙げようというものでした。この計画の、先鋒になろうとした尊王の志士達は、一旦京都の方広寺に集まりました。

その後、天誅組と名乗り、行幸先の奈良に先行して、8月17日を手始めに、幕府の出先機関である「五條代官所」を襲い、勝利しました。

1863年8月17日、長州藩や土佐藩の影響を受けた天誅組は五條代官所を焼き払い、櫻井寺に本陣を置き、門前に「五條御政府」の看板を掲げ、翌日には五條は代官所から天皇の支配下になったことを宣言しました。

当時、代官の首を洗ったとされる鉢が寺に残されています。また、殺害された代官や役人は櫻井寺や近くの極楽寺に納められました。

しかし、突然、天誅組にとって不幸なことが起こりました。天皇が住んでいる京都で、天皇に近かった長州藩が薩摩藩、会津藩に追いやられたのです。世に言う「8月18日の政変」です。このため天誅組は天皇の意向を受けたものではなく単なる反逆集団となってしまったのです。

天誅組はこのあとも、昔から勤王で知られた十津川郷士の参加も得て、千余りの兵で高取城も攻撃しましたが、十津川からの兵は天辻、五條、高取と数日間、不眠不休で戦いに参加したこともあって、敗けてしまうこととなりました。

高取の敗戦後、吉野の山間地域を転戦することとなります。天誅組の中には戦いから逃げてしまうものもいて、1ヶ月余りで壊滅してしまうこととなりました。

しかし、その後5年で、天誅組が考えていたように江戸幕府は倒れ、明治維新を迎えるのです。



だいかんしょ

てんちゅうぐみ

4

# 代官所と天誅組



● 五條には、大和国東部と南部の幕府領（天領）を支配するために、代官所が置かれていました。その代官所の場所がここ五條市役所です。五條は周辺の政治の中心地であり、五條に住む人々は教養が高く、尊王思想にも理解がありました。森田節斎のような儒学者も生まれました。また、五條志士は朝廷をうやまう十津川郷士達とも連絡を取り合っていました。

国内では、天皇中心の世の中を作り、幕府を倒そうとする考え方の尊王の人たちと幕府を立て直し、朝廷も含めて政治を行おうとする公武合体の人たちとの間で険悪な雰囲気になっていました。

尊王攘夷派の三条実美らは倒幕（幕府を倒す）の策を計画しました。その策は、孝明天皇に春日大社で攘夷を祈願する大和行幸を働きかけ、それに乗じて倒幕の兵を挙げようというものでした。そして作戦通り、天皇の命令が発せられました。

それを受けて倒幕のさきがけになると、天誅組の志士達は、ひそかに京都を出発しました。そして8月17日午後4時頃に代官所を襲撃しました。天誅組は代官所の鈴木源内を殺害し、代官所に火を付けました。

なぜ、五條の代官所をねらったのかというと、政治の中心地でありながら、役人が数名しかいないので警備が薄かったからです。

その後、櫻井寺に本陣を置き、あとは朝廷に報告するだけでした。

しかし8月18日、尊王攘夷論から公武合体論に考え方が変わり、三条実美らの尊王攘夷派は失脚しました。そのため、大和行幸は取りやめになりました。このことを8月18日の政変と言います。

このように、天誅組は朝廷から見放されてしまったので、逆ぞくとなり、追われる運命となりました。

天誅組は高取城を攻めたり、尊王の信頼が厚い十津川に立てこもったりしましたが、天誅組が逆ぞくとなった事実が十津川郷士に知らされると、十津川郷士も天誅組からはなれていき、日に日に弱体化しました。9月24日、現在の東吉野村小川という場所でほとんど全滅してしまいました。

# てんちゅうぐみ 5 天誅組メンバー



● 天誅組は尊王攘夷派によって試みられた最初の幕府に逆らう人たちだったのです。天誅組のメンバーを紹介します。

まず、天誅組の主将（一番偉い人）中山忠光について紹介します。中山忠光は1845年に生まれました。後の明治天皇のおじさんにあたる人です。何者にもこわがらず立ち向かう心がありました。1863年9月24日東吉野の戦いでは、決死隊の働きで命からがら逃げることができましたが、次の年の11月には、暗殺されました。主将を務めた時はわずか19歳でした。



中山忠光



天誅組が本陣を置いた桜井寺

次に、天誅組の三総裁、吉村虎太郎、藤本鉄石、松本奎堂を紹介します。吉村虎太郎は土佐国高岡郡芳生野村（現在の高知県津野町）の庄屋の家に生まれました。戦いの時は常に先頭に立って頑張りました。高取城攻めで負った傷が治らず、1863年9月27日、27歳にして戦死しました。

藤本鉄石は備前国（今の岡山県）の出身で、総裁の一人として、軍師（戦いの作戦を考える人）の役割を果たしました。しかし、9月25日に、紀州藩（現在の和歌山県）の陣に切り込み戦死しました。

松本奎堂は三河国（現在の愛知県）の出身で、天誅組に入る前は名古屋、大坂、京都で塾を開いていました。天誅組の中でも思想的指導者だったそうです。

他に那須信吾などの有名な人たちがいます。

このように私たちの周りには天誅組の歴史に関係した人々がいました。ちなみに馬場さんの祖先も、十津川郷士だったと聞いています。



いざわぎあん

# 6

# 井澤 宜庵



● 井澤宜庵は1823年、紀伊国伊都郡見好村（現在の和歌山県かつらぎ町）で生まれました。お父さんは1830年ごろ宜庵を連れて、五條に引っ越して来て、医者を始めました。

宜庵は森田節斎や頼山陽に漢籍（中国の本）を学び、1843年長崎に行き、医学を学びました。後に乾十郎と共に医者として、天誅組に軍医として参加しました。

吉村虎太郎が戦いで傷を負ったときも、丁寧な治療ぶりで、総裁の中山忠光公からほうびとして刀をもらったこともあったそうです。

天誅組が負けた後、一時は津藩（現在の三重県津市）に捕まっていますが、生き延びて隠れていましたが、1865年7月、43歳の時に牢屋で毒殺されてしまいました。



井澤宜庵宅跡



# くりやまけ みち 7 栗山家と道しるべ



- まずこれが道しるべです。本陣交差点に立つ大きな道しるべです。高さは2メートル、36cm角もある大きなものです。右は伊勢方面、左は和歌山方面を指しています。



次は、栗山家です。

栗山家は江戸時代初期の1607年に建てられた、国の重要文化財です。建築年代がわかる民家では日本最古の民家とされています。棟札（屋根裏にある家を建てた年、人を書いた板）に「慶長12（1607）年」の文字が残っています。

旧伊勢街道の名残で、今でも江戸時代の商家の町並みを残している五條・新町の中でも特に目を引く建物です。栗山家は縦16.9m、横13.1m、全面積の2割を占める広い土間と六室からなっています。屋根は本瓦葺きで、それが入っているので、実に堂々としています。内部も太い柱や大きなはりが組み合わされているので、とても立派で雄大です。

もう一つの栗山家は、新町通りができた1608年から88年後、すなわち1626年にできました。この栗山家には、外の長い板のき下があり、五條の町家の中でも珍しい構造です。この栗山家は五條市の市指定文化財になっています。

最後に、札場跡です。札場とは、まちの人たちに知らせる事柄を書いた掲示板が立っていたところです。江戸時代には、農民や商人を取り締まるために、基本的なきまりを掲示しました。江戸時代には、村々に、街のよくわかる場所にこのような掲示板を立てさせ、法律やおきてを記した板札を建てました。このような立て札を建てることは奈良時代から行われていました。



も り た せ つ さ い

8

# 森田節齋



● 森田節齋は、1811年五條で医者の仕事をしている森田文庵さんの二男として生まれました。成長した森田節齋は思想的リーダーとなりました。思想的リーダーとは、世の人々にまとまった考えを示す人のことです。

森田節齋は15歳となった1825年に京都に出て、経学を学び、頼山陽に詩文を学びました。さらに1828年には江戸に行って、昌平黌の古賀侗庵の下で4年間学び、思想的リーダーとして活やくするまでになりました。時々には五條に帰ったり、中国地方や四国地方を旅行したりしながら勉強しました。

森田節齋の教えは尊王攘夷（天皇中心の世の中を目指し、外国人を倒そうとする）の志士達に影響を与えました。節齋は本当に、勉強をたくさんして、経学や詩、文などを学んだそうです。塾を開くほど勉強がすきだったと思います。友だちが多くみんなからしたわれていました。

彼自身は尊王攘夷活動の表舞台に立つことはなく、あくまでも思想的リーダーとしての立場をとり続けました。しかし、節齋が教えた子弟は尊王攘夷派として行動したので、危険人物として幕府からは警戒されました。

1843年旅行しながら勉強するのをやめた森田節齋は、翌年、京都の三条で塾を始めました。このときから節齋の号を名乗ることとなりました。

1853年には五條を訪れた吉田松陰と出会っています。1856年から1860年までは備後藤江村（現在の広島県福山市）でも教育にあたります。後に天誅組に参加する原田亀太郎も子弟の一人です。吉田松陰の弟子である久坂玄瑞も訪ねてきています。

天誅組の事件当日は、節齋は倉敷で塾を開いていたのですが、尊王の志士を多く指導した節齋は、幕府の代官がいる天領においては、特に、危険人物とされ、1865年3月、塾を閉めてしまい、五條に帰り、栄山寺に身をひそめました。

しかし、五條も倉敷もどちらも天領であることから、安全な場所ではないので、紀州粉川近くの荒見村（現在の和歌山県紀の川市）へ移り、ちょんまげを切って、号を愚庵と改め、小さな家で暮らしていました。1868年7月26日、58歳で亡くなりました。

天誅組に参加した節齋の弟子としては、五條の乾十郎、備中の原田亀太郎、河内の森本伝兵衛がいます。交友のあった人物は五條の井沢宜庵、十津川郷士の野崎主計、三総裁の一人である備前の藤本鉄石などです。

きむらとくたろう

9

# 木村篤太郎

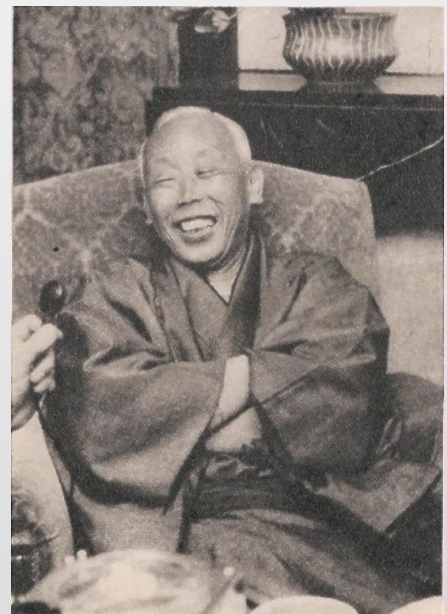
## と五新鉄道

● 1886（明治19）年現在のまちや館で木村篤太郎は生まれました。篤太郎は東京大学卒業後、弁護士を経て、検事総長、法務大臣、初代防衛庁長官になりました。また、木村篤太郎は五新鉄道の計画にも関わったと言われています。剣道にも堪能で、日本剣道連盟初代会長にもなりました。

● 五新鉄道とは五條から和歌山県新宮までつなぐ鉄道のことです。1939（昭和14）年から工事が始まり、吉野川横断の橋脚ができ、生子トンネルが造られました。太平洋戦争が始まると資材不足などの理由で、工事が中止されました。戦争が終わって、1959（昭和34）年に五條から城戸間の道路工事が完成しましたが経済情勢などの変化により、建設が進むことも無く、またもや中断されてしまいました。このように五新鉄道は経済情勢、社会情勢の変化によって大変影響を受けてきたのです。

その後、跡地は路線バス専用道路（2014（平成26）年10月1日廃止）や宇宙の謎を解明する大阪大学コスモ観測所として利用されています。

1997（平成9）年カンヌ映画祭カメラドール賞を受賞した映画「萌の朱雀」は五新鉄道と西吉野の雄大な自然を物語の素材にしています。子役として出場した地元出身の尾野真千子は現在では、大変有名な女優となっています。



保安庁長官 木村篤太郎氏  
（地方区・奈良）無所属 新



10

ふたみじょう

## 二見城



● 新町ができたのは今から約 400 年前、関ヶ原の戦いの後、江戸幕府が成立してすぐの頃にさかのぼります。城づくりや町づくりが大変上手で、筒井家の家来として仕えていた松倉重政が1608年二見氏のやかたを拡張整備し、建設したのが二見城の始まりです。二見城は吉野川が大きく蛇行し、丹生川と出会うあたりに建築しました。現在はその場所はお寺や製材所等になっています。

松倉重政はお城を建てながら、商人に諸々の特権を与え、保護して新町の町並みも造りました。その後、松倉重政は大坂の陣に出陣、徳川方に味方し功績を残したことから、4万3千石の肥前国日野江（今の長崎県島原）に移ることとなりました。1618年島原城の建設を始め、島原城と共に城下町、上新町を造ったのです。6年後の1624年お城を完成させることができましたが、大変立派すぎるお城だったために、財政難となり、住民に大変な税を押しつけたために、松倉重政の死後7年目に住民達が「島原の乱」を起し、松倉氏がつぶれてしまうこととなりました。このように松倉重政の施策は島原の住民にとっては、苦勞の連続でした。

しかし五條では、8年間の短い年月でしたが、松倉重政の新町の住民に特権を与えてくれた功績は高く評価され、新町、西方寺には位牌がおさめられ、墓碑が建立されています。

また、毎年、松倉公祭りが行われています。



# 五夢りんと歩こう!

## 新町歴史ウォーク

平成26年

11月29日(土)

五條小学校6年生が私達の郷土 五條・新町を中心に紹介します。  
五条駅～新町通り～大和二見駅の区間の10ポイントを、両駅を起点に巡ります。

### 募 集

皆様のご参加をお待ちしています

日 時 平成26年11月29日(土)

午前9時～正午



集合場所 JR五条駅前 (五條コース)

JR大和二見駅前(二見コース)の2箇所に集合です。

### 紹介スポット

- ⑪井上内親王居跡 聖武天皇の娘 斎王 御霊神社
- ⑫鈴木源内(極楽寺墓地) 天誅組と第13代五條代官
- ⑬天誅組と代官所(五條市役所)代官は14人 初代は河尻基五郎
- ⑭栗山邸 最古の民家 1607年 重文
- ⑮木村篤太郎宅(まちや館) 最初の法務大臣 剣道復活
- ⑯鍵屋弥兵衛宅跡 花火の師 五條から江戸へ
- ⑰五新鉄道跡 紀伊半島のスポット
- ⑱川村たかし宅 『サーカスのライオン』『新十津川物語』
- ⑲水泳大国(曲 淵) 水泳王国『五條』オリンピック選手輩出
- ⑳二見の大ムク 国指定 天然記念物 樹齢1000年



問合先 五條市立五條小学校

6年担任 森本由利子

徳本 義和

校長 芝田 瑞也

〒637-0041

五條市本町1丁目1-4

TEL 0747(22)2200





いがみないしんのう

11

# 井上内親王



● 私たちは井上内親王について調べました。

奈良時代に聖武天皇は大仏を造りました。大仏を造った理由は、世の中が不安になったからです。聖武天皇の娘が井上内親王でした。井上内親王は奈良で育ち、10歳の時、斎王として、伊勢神宮に仕えました。その後、斎王の役目を終えた井上内親王は、白壁王のお嫁さんになり、白壁王が即位して光仁天皇になったことから皇后となりました。この時代は次の天皇を誰にするかという争いごとが多く、井上内親王は、この争いに巻き込まれ、五條に連れてこられて閉じ込められました。ここは井上内親王が閉じ込められていたといわれるところです。井上院と言います。いつ毒を入れられて殺されるか分からないといった大変苦しい生活でした。吉野川で死のうとしたときに助けてくれる人がいました。その人の名前を井上内親王は水掬（もんどり）と名付けたという伝説が残されています。

その後、1年半で生涯を終えました。殺されたのか、亡くなったのか分かっていません。御山町に井上内親王のお墓が造られています。御山の近くに井上内親王の霊をしずめるために霊安寺と御霊神社がつくられました。市の名前、五條は御霊神社の御霊がなまったものではないかとも言われています。

その後、井上内親王をまつた御霊神社を岡の神社や阿太の神社、阪合部の神社、二見の神社などに分けることとなりました。五條市内にたくさんの神社ができました。井上内親王が白壁王・光仁天皇を思い出したらかわいそうだから、五條地域の家の壁は黒壁にした家が多かったそうです。



歴代代官

代官名	赴任年	離任年
河尻甚五郎	寛政7 (1795)	享和2 (1802)
池田仙九郎	享和3 (1803)	文化7 (1810)
辻 甚太郎	文化7 (1810)	文政5 (1822)
竹内平右衛門	文政5 (1822)	文政7 (1824)
矢島藤蔵	文政8 (1825)	天保2 (1831)
青山九八郎	天保2 (1831)	天保6 (1835)
蓑 笠之助	天保6 (1835)	天保9 (1838)
竹垣三右衛門	天保9 (1838)	天保11 (1840)
小田又七郎	天保11 (1840)	弘化4 (1847)
山上藤一郎	弘化4 (1847)	嘉永2 (1849)
内藤奎左衛門	嘉永2 (1849)	安政5 (1858)
松永善之助	安政5 (1858)	文久2 (1862)
鈴木源内	文久2 (1862)	文久3 (1863)
中村勘兵衛	元治元 (1864)	明治元 (1868)

● ここ極楽寺に鈴木源内のお墓があります。鈴木源内は、五條代官所の13代目の代官で1862年になったものの、1年で殺されてしまいました。源内は天誅組に殺された5人の一番えらい人だったので、幕府の手先として厳しく罪を罰せられました。と同時に殺害された役人と共にさらし首にされました。そしてこの河原で首を切られたそうです。源内のお墓は極楽寺の中にある、あの木で囲った場所です。





# 13

てんちゅうぐみ

だいかんしょ

## 天誅組と代官所



● まず、天誅組について説明します。天誅組とは、江戸時代末期に尊王攘夷を志した、天皇を敬い、外国人を退ける武装集団です。天皇の親戚だった中山忠光を主将としました。天誅組にいた人の多くは 20 代、30 代の若者で、五條出身の人の他に、他の県の出身である下級武士や村の責任者、農民、医者などで構成されていました。天誅組の人たちは、櫻井寺に「五條御政府」の看板を掲げて活動の足場としました。この頃から櫻井寺周辺を本陣と呼ぶようになりました。

次に五條代官所について説明します。

江戸時代中期には、全国に 50 力所前後の代官所が設けられ、徳川幕府の直轄領（天領）を支配していました。1795 年から五條にも代官所が置かれることとなり、五條代官所初代の代官は、河尻甚五郎かわじりじんごろうという人でした。五條代官所は、今の五條市だけではなく、かなり広い場所を治めていました。

当時の代官所に役割は、大きく三つありました。一つ目は年貢の米を治めさせること。二つ目は、地域の政治一般を行うこと。三つ目は警察や裁判所の仕事をする事です。

次に襲撃された時のことについて説明します。

8 月 17 日午後 4 時ごろ、70～80 人ほどが五條代官所を襲いました。一瞬にして代官鈴木源内、手代長谷川岱助など 5 人を討ち取りました。その時に討ち取った 5 人の首を櫻井寺にある手水鉢で洗って後、3 日間、みんなの前にさらしたと言われています。

天誅組が挙兵の地として、五條を選んだのは、1300 年の頃より天皇を敬う人々がたくさんいた南朝の土地であることや天皇を敬う人々がたくさん住んでいる十津川郷をひかえていたからということもあります。大和国の東部と西部の天領を支配する代官所の所在地であったことが一番の大きな原因です。

その後の代官所について説明します。

天誅組に襲撃され焼き払われた代官所は、今の五條市役所があるところに建っていました。その後、代官所は今の簡易裁判所のあるところに立て直され、明治維新後は、一時期設置された五條県の県庁となりました。今は、代官所跡は史跡公園として整備され、代官所の長屋門は民俗資料館となっています。

14

くりやまけ  
栗山家



● これから栗山家について発表します。栗山家は国の重要文化財に指定されている日本最古の民家とされています。一般公開はされていません。現在もここに栗山さんは住んでいます。

この建物は1607（慶長12）年に建てられました。なぜ分かったかという、昭和33年に調査をしたときに、棟札が出てきて、この栗山家は400年前にできたと分かりました。棟札とは建物の棟上げの時に、建てた人や大工さん、建てた年を書いて打ち付けた板で、建物の年代が分かります。

栗山家の構造は、けたの長さが16.9mで、はりがわたされている長さが13.1m、一部二階建てで、入母屋造り、本かわらぶきで、大変太くて、長い木が使われています。

五條新町地区では、江戸時代に何度も大きな火事が起こりましたが、それを乗り越え、町並みが今に伝えられています。





# 木村篤太郎



● 私たちは木村篤太郎さんについて発表します。

新町通りにある江戸時代からの一軒家の商家が修復されて、まちや館として一般に公開されました。当時は「油屋」の屋号で、米を収めていた辻家の住宅でもあります。この家は終戦直後に活躍した五條出身の政治家、木村篤太郎の生家で、彼が中学校時代まで過ごした家でもあります。東京大学卒業後、弁護士を経て、1946（昭和21）年に検事総長に就任しました。それは戦争が終わり、日本各地が焼け野原になり、人々が希望を失いかけている時代、幣原喜重郎内閣発足の時でした。その後、奈良地方区から参議院に2回の当選を果たしました。そして、東京弁護士会会長、警察予備隊（現在の自衛隊）の創設にも力を注ぎました。さらに、戦後禁止されていた剣道を復活させ、日本剣道連盟初代会長として活躍しました。その木村篤太郎さんの生家がこの「まちや館」として今も残っています。

まちや館には、木村篤太郎さんの様々な遺品が展示されており、二畳一間の狭い木村篤太郎さんの勉強部屋も残されています。

まちや館の奥の間に飾られている木村篤太郎さんの書は、葛城市北花内 JR 地区公民館より借りたものです。孔子の言葉で「自分の考えがないまま周りとは協調するのではなく、一人一人が自己の考えをもって協調することで、本当の和が生まれてくる」という意味の書です。これは、彼のモットーになっています。

木村篤太郎さんのことを書いた書物もあります。石井満さんが書いた「井上篤太郎伝」です。その中に「木村篤太郎先生を訪ねて」があります。その中で、木村篤太郎さんは五條のふる里や実家のためにもできるだけ尽力して、郷里の人が訪ねてくるとどんなに忙しい時でもいやがらずに親切に面会したと書かれています。これで発表を終わります。



# 鍵屋弥兵衛



● 鍵屋弥兵衛は現在の五條市大塔町篠原で三男坊として生まれました。1650年頃、新町の火薬製造所に働き来ている時、火薬取り扱いの技術を身に付けた弥兵衛は、吉野川に多く生えている葦という植物の茎に火薬を練って作った小さな玉を詰め、手持ちの吹き出し花火を考えて「火の花」「花の火」「花火」という名前で売り出したところ、飛ぶように売れるようになりました。



やがて弥兵衛は江戸に出て、1659年、日本橋横山町に花火屋「鍵屋」を開いたと伝えられています。

両国川開きの打ち上げ花火は江戸の名物でした。この花火は、両国橋をはさんで、二軒の花火屋「鍵屋」と「玉屋」が技を競い合って打ち上げていました。それを見ていた人々は見事な花火を見て、「かぎやぁ〜」「たまやぁ〜」とかけ声をあげました。

現在でも、各地で行われている花火大会でこのかけ声は、お馴染みとなっています。

1871年鍵屋は出身地にちなんで姓を篠原と名乗り、篠原に残る弥兵衛の親せき達は、鍵屋にちなみ、姓を鍵谷（かぎたに）と名乗りました。

1874年十代目鍵屋弥兵衛の工夫と努力によって、現在多く見られる真ん丸く開く花火が開発されました。何度も何度も研究を重ね、一つ一つ手作りで進められました。

その後、鍵屋14代目が点火技術の改良に努め、電気化を完成させたそうです。

私は日本で一番はじめに花火を開発した鍵屋弥兵衛さんが私たち同じ五條市出身であることを誇りに思います。



17

# ご し ん て つ ど う 五新鉄道



● 私たちは五新鉄道について調べました。五新鉄道が造られたきっかけは、西吉野・大塔・十津川地域の発展と鉄道をもたない紀伊半島の村々の希望だったからです。

これが幻の五新鉄道の高架橋です。

五新鉄道は阪本線や五新線とも呼ばれていました。当時は十津川沿いを南下し、和歌山新宮に至るルートを予定していました。1923（大正12）年五新鉄道の第1期工事として五條から大塔町阪本間 20.8 km が発表され、予算が国会をとりました。その後建設再開と中断を何度も繰り返し、1959（昭和34）年五條から城戸間が完成しました。

次は天辻トンネルです。天辻トンネルは五條から新宮間では、最大の難所で、全長約 5039 m あります。1967（昭和42）年4月1日に西吉野側から掘り進められ、大塔側へ抜ける天辻トンネルの工事が始まりました。それから約5年後の1972（昭和47）年3月31日に完成しました。造るのにかけた費用は約 13 億 9200 万円でした。このトンネルは今も残っています。しかし今は、入り口も出口もふさがれていて立ち入ることはできません。五新鉄道の計画は五條から阪本と天辻トンネルを完成させ、工事が完全にストップしました。ここまでかけた総工事費はなんと 43 億円でした。なぜ新宮まで完成しなかったのかというと戦争中で資材が不足していて、工事を進められなかったことが大きな原因の一つです。

五條から阪本まで完成したものの時代と共に必要性がなくなり、今は使われなくなったままとなっています。トンネルの一部は「大阪大学大塔コスモ観測所」として、宇宙の観測に利用されています。また、映画「朧の朱雀」でも撮影場所に使われました。その他にも、チャレンジウォークという市の行事でこの五新鉄道（旧路線バス専用道）は、許可を得て使われるだけで、今は幻の鉄道となりました。

また、高架橋は「鉄筋コンクリート造り」となっていますが、戦争で鉄がなくなり、この高架橋には竹が使われていますので「竹筋コンクリート造り」になっています。これは竹で骨組みを造り、そこにコンクリートを流して固めたもので、建築史上とても貴重な高架橋だそうです。

かわおら

18

# 川村たかし



● 川村たかしさんについてお話しします。

川村たかしさんは1931年五條市の農家に生まれました。奈良学芸大学（現奈良教育大学）卒業後、五條小学校、五條中学校、五條高等学校の先生、そして大学で児童文学を教えました。小学校の先生として子ども達に国語を教える時、当時の日本には、子ども達のための読み物がないことに着目し、花岡大学さん達と新町の自宅で自ら子ども達の本を書くことを始めました。

「新十津川物語」は1889（明治22）年8月奈良県吉野郡十津川郷を襲った集中豪雨について書いてあります。吉野紀伊山地の山ひだ深く降り始めた雨は、三日二夜、まるで桶の水をぶちまけるかのように降り続けました。人々は山津波、山抜け、山潮などと呼びました。縦横100mを越える大崩れ1080カ所、山崩れ7500カ所、死者168人。この後600家族、2489人は、十津川を離れ、はるばると北海道を目指す苦難の旅を始めるのでした。全10巻1978年から1988年にかけて出版されました。858人の人物が登場する大河小説でした。この物語は1991年から翌年にかけてのNHKの朝の連続ドラマとして放映されました。

続いて、川村たかしさん作の「サーカスのライオン」についてお話しします。

町はずれの広場にサーカスがやってきました。サーカスのライオンの名前は「じんぎ」といいます。「じんぎ」は寝ているときに、いつもアフリカの夢を見ました。出番の時は、二本でも三本でも、燃える輪の中をくぐり抜けました。夜になったら、お客が帰ってしまうので、じんぎは人間の服を着て、散歩に行きます。散歩の途中、男の子に出会いました。男の子は、じんぎに会おうと来たそうです。じんぎは「もう暗いから、お帰り」と言いました。じんぎは男の子を家まで送りました。次の日、男の子はじんぎの檻の前に来て、チョコレートを半分じんぎにあげました。

男の子が帰ってから火事だという怒鳴り声がありました。男の子のアパートが燃えていました。じんぎは男の子を助けるために、火の中に飛び込んでいきました。じんぎのおかげで男の子は助かりました。でもじんぎは……

次の日のサーカスの曲芸は寂しかったです。5つの木の輪は、めらめらと燃えていたけれど、くぐり抜けるライオンの姿はありませんでした。それでもお客さん一生懸命手をたたいていました。

川村たかし先生は「サーカスのライオン」を通じて、お金をもうけたり、ほめてもらおうと言うのではなく、夢中で他の友だちの心を考える人になって下さいと話しておられます。そして、どうしても困ったときには、大きな声で「ウォーツ」とほえて見て下さいと話されていました。



# 水泳王国



● 1952（昭和27）年ヘルシンキオリンピックからミュンヘンオリンピックまでの6大会にわたって五條高校出身の水泳選手達が次々に世界に出て行き、水泳王国「五條」の名は全国に知れ渡りました。昔は五條の子ども達は、夏になれば、一日中吉野川で泳ぐために、川と家とを往復しました。この吉野川の堤防は、伊勢湾台風で川の水があふれたために土を盛って、造られました。それまでは新町通りから下ってくるとどこからでも川に行けるようになっていました。おもしろさを覚え、すばらしい選手を送り出したのは吉野川だといえます。中学生になったら、水泳をがんばろうと思う人がたくさんいました。練習のないときは、ここ「まわりぶち」で水泳の練習をしていたそうです。子ども達が泳いでいたところは大川橋からこの曲淵でした。

特に坪井査稚子先生率いる五條中学校は4年連続、奈良県大会で優勝、1962（昭和37）年には、全日本中学校水泳競技大会で男女共に優勝しました。1961（昭和36）年には50m9コースの大変大きなプールができ、日米中学生親善競技大会が開催され、日本人とアメリカ人の中学生がプールで競いあったのです。

中学校で活躍した選手達は浦井保弘先生の率いる地元の五條高校に進みました。五條高校女子は日本高校選手権で1950（昭和25）年の第18回大会から通算14回優勝しました。国民大会では1951（昭和26）年第5回名古屋国体から12回優勝しました。

五條高校の水泳部で指導をされていた松原奈津子先生は高校生の頃、平均一日練習日は1万メートル、合宿は朝食前、午前中、午後、夕食後と4部練習をし、1万5、6千メートル泳いでいました。さらにオリンピック前では、疲労でプールサイドに倒れ込むほど厳しいものでした。でも外国人と同じプールで勝負できることがとてもうれしかったそうです。同級生のおばあちゃんです。川西さんは、「メキシコオリンピックは、個人種目は準決勝進出、フリーリレーは6位に入賞したことが一番の思い出です。」と語っています。

水泳王国五條は自然と人間が共存していた時代の象徴だといえます。私たちは五條が水泳で有名なことは知っていましたが、こんなにすごい大会に出ていたことやこんなにすばらしい水泳選手がいることは知りませんでした。こんな五條の歴史にふれるのはとても楽しかったです。これからも五條のことをもっと知りたいです。

20

ふたみ

# 二見の大ムク



- 私たちは二見の大ムクの歴史について調べました。

白い土塀に囲まれて、大きな幹がどしっと立っています。二見の大むくです。大むくの前の石碑によれば、幹の周りの長さは 8.5m、高さ 30m、樹齢（木の年）約千年だそうです。大ムクの表面を見ると表面の皮が古木を感じさせます。年月が経っているので、木の中は空洞となっています。ムクの実を食べてみると、干し柿のような味がしました。大ムクの横には、白蛇を奉っているほこらがあります。

大ムクは 1920（大正 9）年頃が最も巨大でした。1959（昭和 34）年の伊勢湾台風で幹が折れムクの木は少し小さくなりました。さらに 1998（平成 10）年台風 7 号の強風で高い幹が折れました。2010（平成 22）年になるとムクの木は、かなり回復して元気になりました。しかし 2012（平成 24）年台風 17 号で幹が中央部から折れました。木のお医者さんに来てもらって、コンクリートのようなもので固めてもらいました。このことは新聞にのり、大きな話題となりました。二見の大ムクには歌もあります。♪♪♪♪♪

ぼくは千年も生きているので自然の力はすごいと思いました。

私はムクの木が台風で何回も折れているのに、復活してくるのはすごいと思いました。

ぼくは千年を超えた木が中は空になっても、元気に立っているのがすごいと思いました。





# 五夢りんと歩こう!

平成27年

## 新町歴史ウォーク

12月5日 (土)

五條小学校6年生が私達の郷土、五條・新町を中心に紹介します。

五條駅～新町通り～大和二見駅の区間の10ポイントを、両駅を起点に巡ります。

### 募 集

皆様のご参加をお待ちしています

日 時 平成27年12月 5日(土)

午前9時～正午



### 紹介スポット

①井上内親王居跡

聖武天皇の娘 齋王 御霊神社

②鈴木源内

天誅組と第13代五條代官

③代官所跡(五條市役所)

代官は14人 初代は河尻甚五郎

④栗山邸

最古の民家 1607年 重文

⑤大川橋北詰

五條の空襲 1945年8月8日

⑥木村篤太郎(まちや館)

最初の法務大臣 剣道復活

⑦鍵屋弥兵衛

花火の師 五條から江戸へ

⑧五新鉄道

紀伊半島のスポット

⑨川村たかし

『サーカスのライオン』『新十津川物語』

⑩吉野川

水泳王国『五條』オリンピック選手輩出



問合先 五條市立五條小学校  
6年担任 原田 龍二  
土谷 梨沙  
校長 芝田 瑞也

〒637-0041  
五條市本町1丁目1-4  
TEL 0747(22)2200



い が み な い し ん の う

21

# 井上内親王



● これから、井上内親王について調べたこととお話します。

ここは、井上内親王がかくれ住んでいた場所です。井上内親王は、聖武天皇の長女として717(養老元)年に生まれました。聖武天皇は奈良時代の天皇で、東大寺を建てて大仏を造りました。

光仁天皇の皇后となった井上内親王は、天皇を呪った疑いをかけられ、五條に連れてこられて閉じ込められ、1年半後に亡くなってしまいました。その後、都で天変地異が相次いで起こり、井上内親王のたたりと恐れられたことから、その霊をしずめるために霊安寺と御霊神社がつくられました。

また、五條は御霊神社の御霊がなまったものではないとも言われています。井上内親王をまつた御霊神社を、岡、阿太、阪合部、二見の神社などで分けることになりました。

光仁天皇の別名は白壁王と言い、井上内親王が白壁王を思い出したらかわいそうだから、五條地域の家の壁は黒壁にした家が多かったそうです。

これで、井上内親王についての発表を終わります。



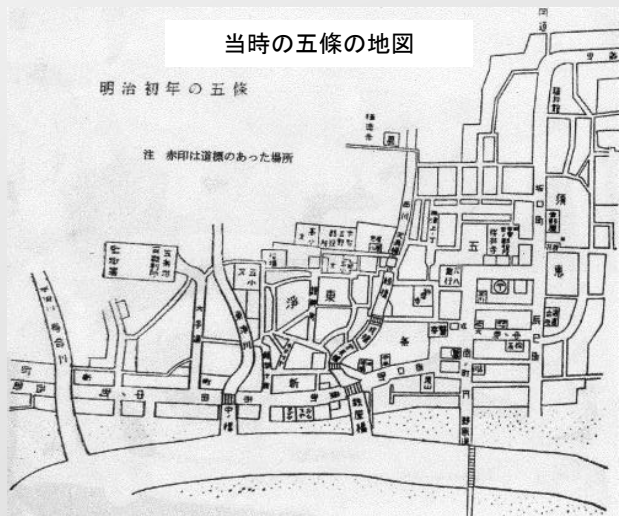


# 鈴木源内



● 鈴木源内のお墓があります。源内は天誅組に殺された5人の一番えらい人だったので、幕府の手先としてきびしく罪を罰せられました。同時に殺害された役人と共に、さらし首にされました。

私達は、極楽寺について調べて、天誅組の変で鈴木源内などの人達が葬られている場所だと初めて知りました。極楽寺に葬られているほかの人物も調べてみたいと思いました。





23

だいかんしょ

# 代官所



● これから、代官所について発表を始めます。ここが、代官所あとです。  
代官所がつくられた理由は、幕府の直轄領である、天領を支配するためでした。

五條代官所初代の代官は河尻甚五郎という人です。寛政年間から明治元年までの74年間に14名の代官が任されました。代官所には、手付けや手代などの30～40名程度の仕える人たちがいましたが、実質的には、8～10名前後の役人で運営されていました。五條代官所は五條だけでなく、吉野郡や宇陀郡方面を含むかなり広い地域を管轄していたのです。

当時の代官所の役割には、大きく三つありました。一つは年貢の収納です。二つ目は、地域の政治一般を行うこと。三つ目は、警察や裁判の業務を行うことです。ここにあった五條代官所は1863（文久3）年におこった天誅組の変の際に焼き討ちにあい、1864（元治元）年10月に、現在奈良地方裁判所五條支部のある場所へ、新たに建て直されました。



明治維新の後、代官所は五條県庁に引き継がれ、一時警察大屯所などに利用されていましたが、1877（明治10）年に五條区裁判所となり、一部は史跡公園となって現在に至っています。これで、代官所についての発表を終わります。





24

# くりやまけ 栗山家



● これから、栗山家住宅について発表します。栗山家住宅は、国の重要文化財に指定されています。建築年代が分かる民家では、日本最古の民家と言われています。

なぜ建築年代が分かったかというと、棟札があったからです。棟札は、建物の建築・修理をしたときに、棟木という屋根の一番高い場所に、水平に用いられる部分材等に取り付けられた札のことです。この札には、建築主や大工さんの名前、建てた年月日などが記されています。調査をしたときに棟札が出てきて、この栗山家住宅は、1607（慶長12）年、今から400年ほど前に出来たと分かりました。



栗山家住宅の構造は、桁<sup>けた</sup>の長さが16.9mで、梁<sup>はり</sup>が渡されている長さが13.1m、一部二階建てで、入母屋造り、本瓦葺きで大変太くて、長い木が使われています。



五條新町地区では、江戸時代に何度も大きな並みを残し火事が起こりましたが、それを乗り越え、町並みが今に伝えられています。これで、栗山家住宅についての発表を終わります。

おおかわばしきたづめ

# 25 大川橋北詰



- これから大川橋について調べたことを発表します。



1945（昭和20）年8月15日の1週間前の8月8日に大川橋北詰に爆弾が落とされました。当時、爆弾が落とされた場所は、さんばつ屋でした。さんばつ屋でいた人が何人か死傷しました。

爆弾が落とされた五年後の昭和25年に、アメリカ人が二、三人調査に来てアメリカ人が爆破したと言っていたそうです。その

さんばつ屋でいた人がなくなったことはかわいそうだと思います。大川橋北詰に爆弾が落ちたことは、戦争のせいですから、絶対、戦争はしません。



戦時中の軍服とゲートル





きむらとくたろう

# 26 木村篤太郎



● これから木村篤太郎について調べたことを発表します。

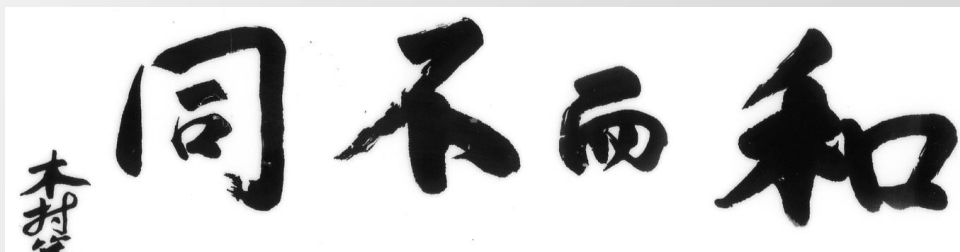
木村篤太郎は 1886 年に現在のまちや館で生まれました。そして、今の東京大学を卒業し、弁護士登録をしました。

アメリカの GHQ が剣道を禁止し、それを 1941 年大日本剣道武徳会会長になった木村篤太郎が剣道を復活させました。そして、1952 年全日本剣道連盟初代会長に就任して、1953 年第 3 回参議院議員通常選挙に当選しました。



篤太郎の生家（まちや館）

1982 年木村篤太郎は 96 歳でなくなりました。五條から大臣が出て剣道を復活させたのは、すごいと思いました。



まちや館の奥の間にかざられている『和而(わじ)不同(ふどう)』と書かれた木村篤太郎の書は、葛城市北花内 JR 地区公民館より借りたものです。

孔子(こうし)の言葉で「自分の考えがないまま周りと協調するのではなく、一人一人が自己の考えをもって協調することで、本当の和が生まれてくる。」という意味です。彼のモットーになっている言葉です。

かぎややへえ  
27

# 鍵屋弥兵衛



● 鍵屋弥兵衛は、大和の国篠原村（現在の五條市大塔町篠原）で、三男坊として生まれました。鍵屋弥兵衛は新町の村松鉄砲合薬調合所、火薬の製造所で奉公として働くことになったようです。ここで火薬の扱い方を身に付けた弥兵衛は火薬の炎の美しさにひかれ、これで花火を作れないかと考えました。

弥兵衛は、吉野川の河原に多く生えている「あし」という植物の茎に火薬を練って作った小さな玉をつめ、手持ちの吹き出し花火を考え出しました。その名前を火の花、花の火、花火という名前で売り出したところ、飛ぶように売れるようになりました。

やがて弥兵衛は、江戸に出て、1659年、日本橋横山町に花火屋「鍵屋」を開いたと伝えられています。両国川開きの打ち上げ花火は、江戸の名物でした。この花火は、両国橋をはさんで、二軒の花火屋「鍵屋」と「玉屋」が技を競い合って打ち上げていました。それを見ていた人々は、見事な花火を見て「かぎやあー」「たまやあー」と掛け声をあげました。現在でも、各地で行われる花火大会で、この掛け声はおなじみとなっています。

ちなみに、鍵屋の番頭、清七にのれん分けしたのが玉屋です。

鍵屋が江戸で売り出した「あし」の管から星の花火が飛び出すおもちゃ花火は大人気となりました。その高い技術は将軍にも認められ幕府御用達の花火師となったそうです。1711（正徳元）年には、隅田川での初めての花火を将軍の命令で鍵屋が打ち上げたという記録が残されています。

1871年、鍵屋は出身地にちなんで、姓を篠原と名乗り、篠原に残る弥兵衛の親戚たちは、鍵屋にちなみ、姓を鍵谷と名乗りました。

1874年、十代目鍵屋弥兵衛の工夫と努力によって、現在多く見られるまん丸く開く花火が開発されました。何度も何度も研究を重ね、一つ一つ手作りで進められました。その後、鍵屋十四代目が点火技術の改良に努め、電気化を完成させたそうです。

私達は、日本で一番初めに花火を開発された弥兵衛さんが、同じ五條市出身であることを、ほこりに思います。

これで、鍵屋弥兵衛について調べたことの発表を終わります。



28

ご し ん て つ ど う

# 五新鉄道



● 当初は十津川沿いを南下し、和歌山新宮に至るルートを計画していました。

1923（大正 12）年、五新鉄道の第 1 期工事として五條から大塔町阪本間 20.8 km が発表され、予算が国会を通りました。その後、建設中断と再開を何度も繰り返し、1959（昭和 34）年、五條から城戸間が完成しました。

五新鉄道が造られたきっかけは、西吉野・大塔・十津川地域の発展と鉄道をもたない紀伊半島の村々の希望だったのです。五新鉄道は、阪本線や五條線とも呼ばれていました。

ところが、経済社会情勢等の変化によって、軌道敷設等の工事は中止が続き、最終的に廃止となりました。結局、五新鉄道の夢は叶うことは出来ませんでした。

もしも、五新鉄道ができていたら、わたしたちの交通範囲も広がっていたと思えました。

これで、五新鉄道の発表を終わります。



史跡公園に保存されている蒸気機関車「金剛ハロ一号」

かわおら

29

# 川村 たかし



● 川村たかしさんは1931年五條市の農家に生まれました。そして、奈良教育大学を卒業後、五條小学校、中学校、高校の教師をし、大学で児童文学を教えました。

小学校の先生として子ども達に国語を教える時に、当時の日本には、こどものための読み物がないことに着目し、花岡大学達と共に新町の自宅で自ら子どものために本を書くことを始めました。川村たかしさんは「サーカスのライオン」や「ゆきおんな」など色々な本を書きました。

「サーカスのライオン」は、小学3年生の国語の教科書に載っています。

私達は「サーカスのライオン」を何度も読んで学習しました。川村たかしさんは『「サーカスのライオン」を通じて、お金をもうけたり、ほめてもらおうと言うのでは無く、夢中で他の友達の心を考える人になってください。』というねがいを込めて書いたそうです。私達は、とてもすてきな方だなあと思いました。

また、「新十津川物語」は、1889年8月奈良県吉野郡十津川郷をおそった集中豪雨について書いてあります。

五條で生まれた経験から書かれた「山へ行く牛」が1978年「国際アンデルセン賞優良作品賞」を受賞し、1989年に「新十津川物語」（全10巻）で「日本児童文学者協会賞」「産経児童出版文化賞大賞」を受賞しました。

川村たかしさんは、2010（平成22）年1月30日午前9時11分、敗血症のため奈良県天理市の病院で78歳の生涯を終えました。

これで、川村たかしさんについての発表を終わります。



川村たかしさん



# 吉野川



● 学校のプールだけでなく、吉野川まわりぶちで泳ぎ、力を付け、多くの水泳選手たちが次々に世界に出て行き、水泳王国「五條」の名は全国に知れわたりました。特に、五條中学校は4年連続、奈良県大会で優勝、昭和37年には、全日本水泳競技大会で男女共に優勝しました。さらにオリンピックに出場する選手も生まれました。

オリンピックに出場した選手達は、疲労でプールサイドに倒れ込むほどきびしい練習だったと言っていました。でも、外国人と同じプールで勝負できることが大変うれしかったようです。

私達は、五條が水泳で有名な事は知っていましたが、すごい大会に出ている人がいるとは知りませんでした。これからも五條のことをもっと知りたいです。



当時の天理プール





